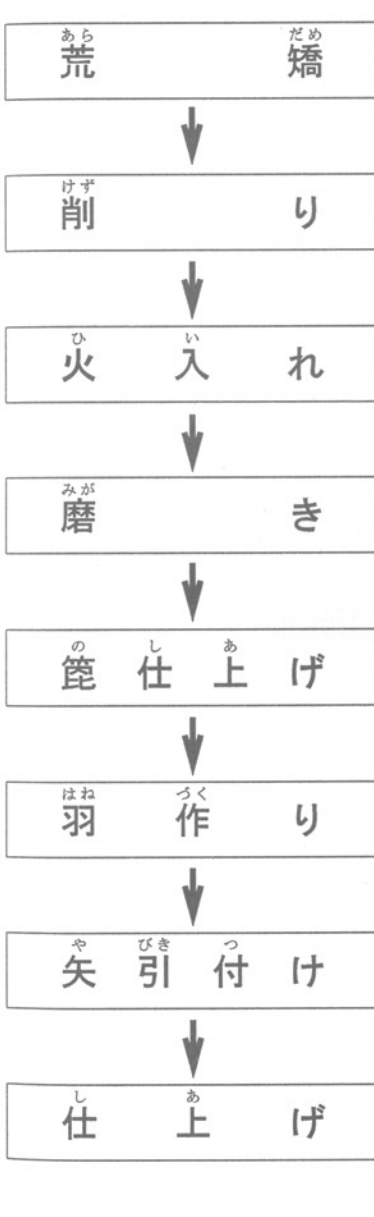


# 矢の製造工程



矢の製造工程の中で竹を四本一組として、太さと重さを揃えてまっすぐに仕上げるのが難しいところです。この為、荒矯から火入れの段階で矢は九割方決まってしまうといわれています。

羽をつける部分も、三等分してつけていきますが、同じようできて職人によって微妙に違いがあります。

**荒削り**

炭を積んだ炭火のトンネルの中を通し、ため木を使って三十回くらい、両手でバランス良く充分にしごく。目で見ながら、節の歪みを取り、竹をまっすぐにしていく。

**火入れ**

炭火のトンネルを通し、焼き色を付ける。火入れによって、竹がしまつて細くなる。石屋さん筋をつけて貰った二枚の石に竹をはさみ、二本ずつ、水を付けながらこする。この時、細かいふるいにかけて砂をつけて磨く。この作業で表面の細かい小刀の跡が取る。

**磨き**

とくさで何回もいねいに磨き、一本の矢の全体を均一にするだけでなく、四本の矢とも同じように艶を出す。

**籠仕上げ**

四本で一組なので、四本の重さを揃える。やじろべえの原理でバランスを取りながら、一番重いものに揃えていく。

**羽作り**

まず、羽の選定をし、羽にハサミを入れ、大きさや形をあらかじめ揃えておく。羽を蒸気にあて、全体のしわを伸ばし、更に熱したコテで部分的なしわを伸ばす。

**矢引付け**

先端にハズを入れる。昔はニカワだったが、今はボンドで付ける。三本の羽を三分の間隔で麻糸で巻きながら、バランス良く付けていく。

**仕上げ**

再び、羽にはさみを入れ、全体のバランスを考えて形を切りそろえる。最後に矢尻を入れて、仕上げる。

**仕上げ**

再び、羽にはさみを入れ、全体のバランスを考えて形を切りそろえる。最後に矢尻を入れて、仕上げる。